

# 暖流

公益社団法人岡山青年会議所  
Since 1951

2024  
Vol.4

大森 将平

公益社団法人岡山青年会議所  
第74代理事長

那須 保友

岡山大学長

SPECIAL TALK

那須 保友

岡山大学長

×

大森 将平

公益社団法人 岡山青年会議所 第74代理事長

CONTENT

- 理事長挨拶・一年振り返り
- 学長対談
- 事業報告
- スタートアップアトツギ

2024 SLOGAN

ONE  
UNION

ONE  
UNION

一年間「暖流」をご愛読いただき、誠にありがとうございました。



左記二次元コードより、  
2024年度「暖流」に関するアンケートのご協力をお願いします。  
今後の参考にさせていただくため、ご感想・ご意見をお聞かせください。  
<https://forms.gle/ESRq5hkvmNH4xNu8>



homepage address

<https://www.okjc.org>



facebook



instagram



岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業や運動のご報告など随時更新しております。  
お気軽にホームページをご覧ください。

岡山青年会議所

検索

暖流  
公益社団法人岡山青年会議所  
Since 1951

次号は令和7年1月発行予定です。

発行日 令和6年12月  
発行 公益社団法人岡山青年会議所  
〒700-0985 岡山市北区厚生町3丁目1番15 岡山商工会議所ビル6階  
TEL 086-223-0938 FAX 086-225-0500 email [info@jci-okayama.com](mailto:info@jci-okayama.com)  
発行責任者 公益社団法人岡山青年会議所  
プランディング委員会  
委員長：久保 和裕  
大川 直人・片岡 大地・井上 玉丹穂・福永 涼人  
高木 大地・高橋 政司・青山あゆみ

## 暖流発行にあたって

公益社団法人岡山青年会議所の広報誌「暖流」をご覧いただきありがとうございます。

早いもので今年も残すところわずかとなりました。岡山青年会議所の理事長として、

この一年間「暖流」をご愛読いただき、心より感謝申し上げます。

今年のスローガンは「ONE UNION」を掲げ、私たちは、強固な絆で結ばれたチームであることを強く意識し、

自らが先頭に立つことの重要性を再確認しました。一人ひとりが持つ才能を認め合い、

それらを結集させることで、どんな困難な壁も共に乗り越え、目的を成し遂げられるよう活動を展開してまいりました。

2024年度は新たな変革のスタートを切り、過去に培った経験と伝統を大切にしながらも、

柔軟で革新的なアプローチを模索し続けることが求められる年でした。

さまざまな活動の中で多くの困難を経験しましたが、ひとつのチームとして全員で乗り越え、

新たな視点で地域の価値を再評価し、人と人、まちとひとの絆を深められたのではないかと感じております。

時代の変化が目まぐるしく進む中で、2024年度の岡山青年会議所の活動が成功を収めることができたのも、

市民、行政、他団体、特別会員の皆さまのご支援・ご協力があったからこそと実感しております。

最後になりますが、この場を借りて、2024年度の岡山青年会議所の活動に関わっていただいた

すべての皆さまに御礼申し上げます。一年間ありがとうございました。

今後とも、岡山青年会議所へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、

2025年が皆さまにとって実り多き年となりますよう、心よりお祈りいたします。



公益社団法人岡山青年会議所  
第74代理事長

大森 将平



## 大森 将平

Shohei Omori

昭和60年生まれ。平成16年岡山学芸館高等学校 卒業、平成23年、大組鋼材株式会社設立。公益社団法人岡山青年会議所には平成28年に入会し、令和元年に岡山の未来創造委員会(理事委員長)、令和3年に総務室(常任理事)、日本青年会議所 中国地区 岡山ブロック協議会(運営専務) 出向、令和4年に総務室(専務理事)、令和5年まちづくり室(副理事長)を歴任。



## 那須 保友

Yasutomo Nasu

1957年生まれ。愛媛県松山市出身。博士(医学)(岡山大学)。81年3月岡山大学医学部卒業。86年同大学大学院医学研究科博士課程修了後、同大学医学部附属病院医員、社会保険広島市民病院医師。89年財団法人積善会附属十全総合病院部長。91年岡山大学医学部講師。96年米国ペイラー医科大学研究員。2004年岡山大学大学院歯学総合研究科助教授、10年同大学病院新医療研究開発センター教授、13年副病院長。同大学副理事、理事・副学長を経て23年4月学長に就任。専門は泌尿器科学。



# 特別対談

## 岡山大学 那須保友学長と語る 不易流行とこれからの組織づくり

岡山大学 那須保友学長と大森理事長がお互いに大切にしている「不易流行」や組織論など、さまざまな意見を交わしました。

岡山大学・岡山青年会議所、それぞれの組織としての「不易流行」とは

大森将平 岡山青年会議所で理事長を務めます大森です。本日はよろしくお願います。

那須学長は「不易流行」という言葉を大切にされていますが、実は岡山青年会議所も、不易と流行をすごく大切にしています。

そこでまずは那須学長が考える「組織の不易と流行」についてお伺いしてみたいと思います。

那須保友 私は学長になる以前から「不易流行」という言葉を大切にしてきました。岡山大学という組織にとっての不易とは、多様なマルチステークホルダーの幸せを追求して、ウェルビーイングを実現すること。流行とは、社会情勢や国の施策、地域の想いをいち早く捉えて先導することです。

しかしトップがどれだけ言っても、組織全体の認識や方向性が共有されるわけではないので、一番大切なのは『あなたにとっての不易流行は何ですか?』一人ひとりに問いかけることだと思います。そうして皆にとっての不易流行を組織風土として根付かせるようにしています。

大森将平 私たち岡山青年会議所も約70年間「不易流行」という言葉を大切にしてきたので、組織の中でも「不易」とは『流行とは』という話題はよく上がります。

私が「不易」だと思っている部分は、『将来のまちづくりをする人をつくる』ということ。これを組織の中の大きな枠組みとして大切に考えています。しかしメンバー一人ひとり考え方は異なるので、常々それぞれの立場で不易流行を考えてください。ということを言い続けてきました。先ほど那須学長も同じことをおっしゃられていたので、言い続けてきたことは間違いではなかったのだなと

いうことを、改めて感じました。

那須保友 そうですね。それでお互いに「不易流行」という言葉を酒の肴にして語り合うことが大切。それが職場の不易流行であったり、家庭のことであったり、議論を深めていくことで良い方向に向かうと思いますね。

大森将平 そうですね。先ほど言ったように、私が「不易」として考えていることは、青年会議所に入会した人が卒業した後も、まちづくりにつながる選択や行動をするようになる。そんな感情を持たせることだと考えています。

もちろん岡山青年会議所の活動は地域のために行っています。しかし大きなくくりではメンバーに不易流行を考えてもらい、まちづくりに関わる感情を持たせて、自らが発信していく人になる環境づくりが大切だと思っています。

那須保友 その通りですね。そこから「まちづくり」とは何なのかということを追求めていくと、結局は住みやすい街を作ることになる。そしてこの街で働いてよかった、暮らしてよかったと思うその先には『岡山LOVE』という帰属意識が生まれます。

大森将平 ありがとうございます。「帰属意識」というキーワードをいただきましたので、那須学長が考える組織への帰属意識の高め方。その取り組みや、それによって得られた成果や影響など、ぜひお伺いしたいです。

「ここに入ってよかった」を感じさせる帰属意識を醸成するには

那須保友 帰属意識を高めるといことは、「この組織に入ってよかった」と思ってもらうこと。言うのは簡単ですが、すごく難しいことだし結果もすぐに表れることはありません。

私は組織の中で帰属意識を醸成するための様々なレベルの戦略を行っていて、蝶ネクタイをしているのもその手段の一つです。「ガクチョウネクタイ」という、蝶ネクタイをモチーフにしたメッセージ

ジカードを持ち歩いている、学生と一緒に写真を撮ったり自撮りしたりしてもらってSNSに上げてもらっています。一年半続けてみて学内で声をかけられることも増えましたし、学生には定着してきました。これも身近な帰属意識なんですよ。

大森将平 なるほど、蝶ネクタイも帰属意識を高めるための、ブランドの一つになっているんですね。

那須保友 私が以前から言い続けていることが「この組織にいたら何かできそう」と思ってもらうことです。朝起きたときに、今日は何をしようかなとワクワクドキドキ思えるかどうか。そういうことも帰属意識のパロメーターになっていると思いますね。

そして組織の中で心理的安全性を守り、皆が自分の意見や気持ちを発信して、主体的に物事に関わってもらいたいと思っています。サッカー元日本代表の長谷部誠さんも「随処作主、立処皆真(随処に主となれば、立処みな真なり)」という言葉を大切にしていますが、日本人にはこの主体性が欠けている部分もある。学生たちにも皆が主人公なのだから、主体性をもって行動できるように努めてくださいというメッセージを伝えていきます。

大森将平 私たちの組織も「青年会議所」に入ってきたかと思ってもらうことがマストだと思っています。地域課題を解決するためや活性化のために、青年会議所では様々な事業を行っているのですが、その中でメンバーに主体性を持ってもらうことを、この一年間言い続けてきました。改めて那須学長とは組織の考え方に共通する部分があると感じています。

とはいえ「主体性を持つてほしい」と言っても定着させることは難しいですよ。そのため私は事業を立案する際にはメンバーに、参加してくれるお客さんや協力してくれる学生さんたちに、主体性を持たせるような仕組みを考えてくださいと言っています。そうすると自然に当事者意識について考える、意識を持つということに繋がるので、本年度はずっとキーワードにしていますね。

那須保友 私が大学の改革で行ったのはアジャイルな手法を導入することでした。大学の多くは縦割りの組織で決まったことを段階的に行うウォーターフォール型を進めています。しかしこれから新しいことを実行するためには、従来のやり方では対応できないということ、いろんな部署が集まって柔軟に対応できるアジャイル型の組織に改革していきます。これも主体的に当事者意識を持つてもらうための一つですよ。

教育もそうですね。これまでは机に座って授業を聞くという受動的なものでしたが、考えて行動してみようという方向に向かっています。

岡山大学でもDS部(データサイエンス部)があり、学生が主体となって技術や大学の学びを活かして社会や企業の課題解決に挑んでいます。

大森将平 いいですね。私たちも自治体だけではなく、様々な組織や学生たちと連携してこの一年、事業を行ってきたので、共通する部分があります。

那須保友 そしてその先に何かがあるかということ、学生が地域の企業のことを知るんですよ。やはり就職となるとテレビやCMで見たことのある企業を受ける。親も同じような考えですよ。福利厚生や給料がいいとかね。だから就職してもやりがいが見つけられず、離職してしまうというパターンがあります。

ですが地元には、光るものをたくさん持っている中小企業がありますよね。学生たちが地域の企業と関わる機会を作り、課題を解決しながらやりがいを見つけてもらい、岡山に定着することができればと考えています。

大森将平 私たちも地域の課題解決に取り組んでいます。目先の課題を解決したうえで、その先の本質や根本の問題を考えることが大切だと考えています。那須学長とは考えが共通する部分も多く、お話ししていると学ぶ意欲が湧いてきます。

本日はありがとうございます。

# 2024年度事業報告



## Sky City OKAYAMA 防災フェスタ 2024

開催日：2024年9月29日（日）9:00～15:30

開催場所：岡南飛行場（岡山県岡山市南区浦安南町 640）

災害に対する備えや対応についての知識を学んでいただき、  
岡山の魅力的な資源を多くの方に知っていただくことを目的として、  
9月29日（日）、岡南飛行場にて「Sky City OKAYAMA 防災フェスタ 2024」を開催いたしました。  
本事業ではVRフライトシミュレーターの体験、起震車の体験コーナーなどのブースのほか、  
空飛ぶクルマやヘリコプター、パトカーなどの車両展示も行い、  
多くの来場者に楽しんでいただきました!ご参加いただいた多くの皆様、誠にありがとうございました!

## おかやまキッズスポーツフェスタ 2024

開催日：2024年9月16日（月・祝）9:30～16:00

開催場所：岡山県総合グラウンド（岡山市北区いずみ町 2-1）

岡山青年会議所では子どもたちにスポーツの無限の可能性をより身近に体験してもらえるスポーツイベント  
「おかやまキッズスポーツフェスタ 2024」を、9月16日（月・祝）岡山県総合グラウンドにて開催いたしました。  
普段では体験することができない様々なスポーツを含めた、  
全19種目のスポーツ体験コーナーでは、プロ団体や協会によるスポーツ教室を実施。  
参加した子どもたちは真剣な眼差しで取り組み、汗を流し、多くの笑顔に包まれた1日となりました。  
ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました!

# 2024年度事業報告

## 大森理事長 岡山市議会議場講演

開催日：2024年10月16日（水）

開催場所：岡山市議会 本会議場



岡山市議会議員研修会において、大森理事長が講演を行いました。  
当日は、田口議長をはじめとする多くの岡山市議会議員の皆様にご参加いただき、岡山青年会議所の歴史やまちづくりの取り組み、活動内容についてご紹介させていただきました。参加いただいた議員の皆さまからは、多くのご質問やご意見をいただき、今後の岡山青年会議所活動の参考となる貴重な機会となりました。

## おかやまチームクエスト 2024

開催日：2024年11月17日（日）前半 9:30~12:00 後半 12:30~15:00

開催場所：岡山コンベンションセンター



岡山コンベンションセンターにて「おかやまチームクエスト 2024」を開催しました。  
小学生を対象に、将来に必要な人間関係構築やコミュニケーション能力を育むことを目的としたプログラムで、参加者の皆さんはより豊かな思いやりの心を育む時間となったのではないかと思います！  
イベントでは、教育をテーマに岡山県内の大学にご出展いただき、全10種類の体験プログラムに多くの子どもたちが参加して、楽しく有意義な時間となりました。  
ご参加いただきました皆様、ありがとうございました！

## トータルテンボスのお笑い講演ライブ

開催日：2024年10月9日（水）18:50~20:00

開催場所：さん太ホール



公益社団法人岡山青年会議所 10月市民公開例会にて  
【トータルテンボスのお笑い講演ライブ by 岡山青年会議所】「ハンパねえ一歩を踏み出すんだあ!構わんよ。」を開催いたしました。会場には幅広い世代の市民の皆様にご参加いただき、お二人の独特の間合いとボケとツッコミに終始会場は盛り上がり、笑いに包まれ、お二人の笑いを届ける情熱を感じる時間となりました!ご参加いただいた多くの皆様、誠にありがとうございました!  
トータルテンボスのお二人のさらなるご活躍を岡山青年会議所一同、応援しております!

## 奉還町アキナイト 2024

開催日：2024年10月12日（土）17:00~20:00

開催場所：奉還町商店街一帯及びわいわい広場



岡山青年会議所では、学生と企業のコラボ出店を通じて地元商店街を活性化させる取り組み「奉還町アキナイト 2024」を10月12日（土）に開催しました。  
このイベント限定で登場した、地元の学生たちと企業がコラボレーションした屋台では、学生が考案したさまざまなメニューが登場し、大好評をいただきました。  
また、スタンプラリーやミニ縁日も実施し、射的やスーパーボールすくいなどの楽しいアトラクションで会場は大いに盛り上がりました!ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました!



# STAR ATOT TUP SUGI

## スタートアップアトツギ

岡山青年会議所に所属する「スタートアップ/アトツギ」メンバーをご紹介します。新しいサービスや取り組み、技術革新を生み出す経営者、起業家に社会課題を解決する為の取り組みや、事業への想いをうかがいました。



梶原乳業株式会社

「quotation mark」用符/日本語の括弧にあたる「のイメー」社から「クォーテーションマーク株式会社」と名付けました。「非常識を常識に」という理念のもと、多くの人が見過ごしているものや、視点を変えることで新たな価値を見出すようなものを創造することを目指しています。

現在の事業に至るまでの経緯  
きっかけは、20歳の時に日本を自転車で縦断した経験でした。多くの出会いと学びがあった一方で一般的な進路からは外れることになり、「自分で事業をやるしかない」と考えるようになりまし

家業への思い  
物心ついたときから「5代目」として紹介され、将来の夢の欄にも「梶原乳業の社長になりたい」と書いていました。「父みたいになりたい」という強い憧れがずっとあり、入社することもなく大学を卒業してすぐ入社しました。

社会課題を解決する取り組み  
酪農業界には「酪農離れ」の問題がつきまといま。相手が動物なので24時間仕事が続きますし、牛乳を搾らないと牛が病気になるってしまいます。また飼料代の高騰や円安、少子化による牛乳消費の減少も課題。その中で少しでも消費者の方が安い値段で買えるよう企業として努力を続けています。

現在の事業に至るまでの経緯  
1907年に高祖父の梶原壽吉が岡山市津島福居で牧場と牛乳製造を始めました。当時は、「まちの豆腐屋さん」のような存在で、その場で乳を搾って販売する形の牛乳屋でした。2代目の曾祖父も牧場を引き継ぎ、3代目の祖父は自ら獣医になって牧場経営を続けながら、牛乳やヨーグルトを作り、当時増え始めたスーパーマーケットにも対応していました。88年に牧場をやめて岡山市玉柏に工場を移し、父の代から牛乳一本に集中して生産しています。

社名の由来  
「quotation mark」用符/日本語の括弧にあたる「のイメー」社から「クォーテーションマーク株式会社」と名付けました。「非常識を常識に」という理念のもと、多くの人が見過ごしているものや、視点を変えることで新たな価値を見出すようなものを創造することを目指しています。

引用符が言葉強調するように、伝えたい想いや新しい価値観を世の中に発信する、という意味を込めました。社会課題を解決する御社の取り組み「クレイジーアイスクリームの2日店長」プログラムや、地域イベントへの積極的な出店を通じ、子どもたちや地域の皆さまに楽しんでいただく機会を提供しています。さらに地域や学校と連携し、新しいアイスクリームの共同開発販売にも取り組んでいます。この活動を通じて学びの楽しさを体感してもらいながら、地域社会への貢献を目指しています。

今後の目標  
牛乳が好き嫌いが分かれる飲み物だと思えます。僕が子供の頃は、牛乳が来なところがあると思えますし、息子だからこそ言いすぎることもあると聞きます。関係がうまくいかず、会社をやめた話も耳にしましたが、父は僕を尊重してくれ、良いコミュニケーションが取れているので、良い「アトツギ」としてパトントンタッチできると思っています。

僕も後を継いでもらわないといけない立場になっていくことを、意識しながら子育てにも取り組まないと、次の150年、200年へとつなげていくことはできません。会社としても家族としても、次世代にパトントンタッチすることが大事だと強く感じています。



梶原乳業株式会社



クォーテーションマーク株式会社  
〒700-0913  
岡山県岡山市北区大供3-1-9  
TEL.086-897-0100  
事業内容: サービス・小売・飲食業  
会社設立年月日/平成30年1月4日

クォーテーションマーク株式会社  
代表取締役社長 池田 穂  
昭和60年5月21日生まれ



Crazy Ice-Cream

スタートアップに一言  
せっかく自分たちが立ち上げた会社や事業ですから、楽しむことが何より大切だと考えています。自分たちにはできないことを意識することで、他にはない価値を生み出し、結果として生き残る道が開けると感じています。

私とはどちらかというと起業家気質で、常に新しいことに挑戦するのが好きですが、だからこそ自分の性格としっかり向き合い、正直に取り組みることが重要だと思っています。



梶原乳業株式会社  
常務取締役 梶原 一義  
平成2年5月21日生まれ

嫌いな同級生がいると自分が嫌われているように感じて嫌でした(笑) 今後は牛乳に限らず、みんなに喜んでもらえるアイスクリーの食品に関わりたいと思っています。みんなが喜んでくれる食品だと思えますし、自分の子供たちも喜んでくれると思うので。

スタートアップアトツギへ一言  
跡継ぎという立場は、次のアトツギのことも考えていかないといけない。先代をしっかりと理解することが大切で、それがなければ今までやってきた事業に対して失礼だと思えますし、そこがアトツギのスタートだと思っています。

そして常に次世代のことも考えながら進めていく。「アトツギだから生まれ新しい発想もあると思います。そして、いずれ自分がトップに立つとき、家業として受け継がれてきたものを未来にどう繋げていくかを真剣に考えていきたいです。